

PSC

年次報告書 2012-2013
Annual Report

2012年4月1日~2013年3月31日

CONTENTS

CONTENTS	1
2012年度の活動／成果と課題	2
2012年度 事業一覧	3
2012年度 1年の動き	4
2012年度 PSC事業報告他	
■ センターの主な事業	6
■ センターの運営に関する活動	21
■ 2012年度PSC役員一覧	23
■ 2012年度PSCデータ	24
2012年度 資料編	24

2012年度の活動

2012年度、PSCの自主事業として実施した「第9回日本パートナーシップ大賞」「第7回企業&NPO協働アイデアコンテスト」は、回を重ねるごとに協働事業やアイデアの質・内容が深まり、ミッション実現への進展をみることができた。一方、新たな自主事業として確立を目指した「企業のCSR活動支援」については、企業へのアプローチや講座などを実施し、数社の企業に対しては協働やCSRを前進させることができたものの、事業として確立するまでには至らなかった。

新たに展開した「地域防災に関する実証研究」「環境 NGO・NPO 組織運営講座」「組織運営力強化のためのメンター派遣プログラム」は、これまでの実績を活かしたPSCらしい事業となった。

本年度は、委託や助成などを財源として活動してきた前年度とは大きく様変わりし、中間支援・PSCの社会的意義や役割を改めて考える一年となった。

2012年度の成果と課題

「PSC中期ビジョン5つの事業戦略」に沿って紹介する。

1. NPOと企業の協働推進

「パートナーシップ大賞」は、これまで以上に全国展開していくために、名称を「日本パートナーシップ大賞」と改称。応募県の拡がりや、最終審査・表彰式への参加者数の増加により、本事業の意義をさらに広めることができた。

(公財)中部圏社会経済研究所との協働で実施した「市民・行政・企業の協働による地域防災による実証研究」では、小牧市における地域防災について各セクターの現状と役割を共有し、次年度へ引き継いでいく下地を創ることができた。

2. NPO視点によるCSR支援

2年間愛知県の委託事業として実施した「企業のCSR活動支援」事業を、今年度は自主事業として実施。委託事業に参加した6社や新規企業へのアプローチを行い、企業数社に対しては協働およびCSRを前進させることができたが、成果としては十分とは言えず、自主事業としての確立という課題は持ち越された。

3. 協働できるNPO・市民づくり

環境 NGO・NPOを中心に組織の基盤強化や企業との協働に向けて実施した「環境 NGO・NPO 活動推進・組織運営講座」「組織運営力強化のためのメンター派遣プログラム」では、PSCらしい支援を行うことができた。

日本 NPO センターとの協働による「SAVE JAPAN プロジェクト」「NPO 育成・強化プロジェクト」メンター業務は、住民が自然保護活動

に関わるためのきっかけづくりや被災地域の NPO リーダー養成支援として、それぞれ有効な事業となった。

4. 企業からNPOへの流れの創出

前年度の成果である「NPO×企業 協働コーディネーター養成講座」を、今年度は全国2ヵ所の県で実施。PSCらしさの際立つ独自の実践講座として高い評価を得た。これをどのように自主事業として確立するかが今後の課題である。

5. 提言活動・他団体との連携、ネットワークの強化

「新しい公共支援事業」の展開を受け、全国各地からの講師やアドバイザーの依頼に対し、ひとつずつ丁寧に対応したことで、成果につなげることができた。また、全国の NPO 支援センター・NPO 法人会計基準協議会等との連携等により、中間支援組織としての一定の役割を果たすことができた。

今後の大きな課題としては、委託・助成事業などに左右されない事業と仕組みをつくることであり、そのためには、「企業のCSR活動支援」や「NPO×企業 協働コーディネーター養成講座」をはじめとした、PSCらしい独自の事業を確立していくことである。

■2012年度 事業一覧

(カテゴリ別)	(事業名)	掲載ページ	事業形態(※)	2012年度新規事業(★) (年号は開始年度)	中期ビジョン5つの事業戦略				
					NPOと企業の協働推進	NPO視点によるCSR推進	協働できるNPO・市民づくり	企業からNPOへの流れの創出	提言活動・他団体との連携
1.「パートナーシップ大賞」事業	第9回 日本パートナーシップ大賞	6	自	2002～	●	●	●		
2.コラボレーション事業	(1) 第7回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト	8	協	2006～	●		●		●
	(2) 市民・行政・企業の協働による地域防災に関する実証研究	10	委	★	●	●			●
	(3) SAVE JAPANプロジェクト	11	委	★			●		●
3.コーディネート事業	(1) NPO 喫茶支援	13	自	1999～		●	●		●
	(2) コーディネート講座	13	自	★			●	●	●
4.コンサルティング事業	(1) 企業のCSR活動支援	14	委	2010～		●		●	
	(2) NPO・企業・行政各種相談等	15	自	1998～	●		●		●
5.教育啓発事業	(1) 環境 NGO・NPO 活動推進・組織運営講座	16	委	★			●		
	(2) 環境 NGO・NPO のための講師派遣による組織運営講座	17	委	★			●		
	(3) 「市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクト」メンター業務	17	委	★			●		●
	(4) PSC 学習会	18	自協	1998～			●		●
6.調査研究事業	—	19	—	—					
7.情報発信	(1) 「PSC Report」の発行	19	自	1998～					●
	(2) ホームページ等の運営他	19	自	1998～					●
	(3) チラシ等	19	—	1998～					●
8.提言活動・その他の事業	(1) 行政各種委員としての提言活動	20	—	1998～					●
	(2) 各団体等との連携・ネットワーク	20	—	1998～					●

※ 事業形態について、自主事業は「自」、委託事業は「委」、協働事業は「協」と記載した。

2012年度
PSC 1年の動き

2012年度の主な事業を時系列で表しています。
■内の数字は各事業の掲載ページを示しています。

2012年 4月 5月 6月 7月 8月 9月

P6 第9回 日本パートナーシップ大賞

協働事業の募集

第一次審査



最終審査・表彰式

P8 第7回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト

エントリー期間

アイデア応募

第一次審査

P10 市民・行政・企業の協働

地域防災研究会議①(8/30)



環境プログラム①(7/21)

P11 SAVE JAPAN プロジェクト

参加者募集

テーマ《外来種》

P14 企業のCSR活動支援

CSR研究会

フレイベント(8/2)

参加者募集

(株)真誠 CSR委員会・研修

委員会(6/22)

(7/19)

(8/24)

(9/18)



CSR研修



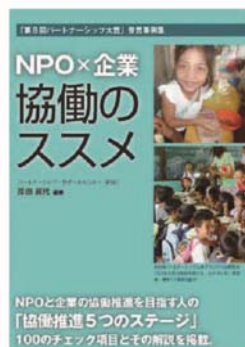
CSR委員会

P16 環境NGO・NPO活動推進・組織運営講座



P17 環境NGO・NPOのため

P13,18 その他の事業



12月1日発行!

第8回パートナーシップ大賞
受賞事例集

【NPO&企業 協働のススメ】

A5版 134ページ / 1,470円
/ サンライズ出版

*NPOと企業の協働推進を目指す人の
「協働推進5つのステージ」
100のチェック項目とその解説を掲載!

(凡例)

☆ 表彰式など

◆◇ 審査・研修・学習会・会議など

10月

11月

12月

2013年 1月

2月

3月

ヒアリング調査

第二次審査

☆ 最終審査・表彰式 (12/1)



☆ 最終選考会&表彰交流会 (10/17)



グランプリに輝いたのは…

まごコスメプロジェクト事業

(N) 植える美 ing、万協製菓機、
榎相可フードネット「せんばいの店」、多気町

最優秀賞は…

(N) ジョイフル (長野県塩尻市)

若年就労支援施設「おもちゃ箱のレストラン」
(仮称) 新設協働プロジェクト

による地域防災に関する実証研究

②(10/9)

③(11/15)



③(1/23)



②(9/29)

③(10/27)

④(11/17)

《里山の生き物》

《夜の里山》

《竹》



CSR 研究会 (10/23)

参加者募集

CSR 研修 (10/18)

委員会 (11/15)

(12/13) (12/20)

(1/17)

(2/21)

(3/18)

《協働の企画づくり》

参加者の募集

講座 (12/15,16)



の講師派遣による組織運営講座

選定

受講団体の募集

メンター、専門家派遣によるサポート



広報セミナー

(9/28)

コーディネート講座 (計5回)

・インターネットラジオ (11/16、12/21)
・『居場所づくり』 (11/16、12/21、1/18)

■センターの主な事業

1. 「パートナーシップ大賞」事業

第9回 日本パートナーシップ大賞

<自主事業>



2002年度から開始し、9回目の実施。NPOと企業のパートナーシップを確立し、活性化することにより、新しい市民社会・新しい公共の実現に寄与することを目指し開催している自主事業。これまで以上に全国に向けて本事業の意義を発信し、協働を推進・拡大していくために、今回より名称を「日本パートナーシップ大賞」として開催。

目的	・NPOと企業の優れた協働事業を顕彰することによって、社会や地域のさまざまな課題を浮かび上げさせ、その解決方法を示し、NPOと企業の協働を推進する。
目標	・応募数 30件 ・最終審査・表彰式への参加者 120名 ・「第8回パートナーシップ大賞」事例集を出版（11月15日発行）
成果と課題	・応募数 33件、最終審査・表彰式への参加者 130名 ・募集に際しては、これまでに一度も応募の無かった13県に積極的に広報したことにより、応募県が2県拡大。応募地域は、第1回からの累計で36都道府県に広がった。 ・発表団体・企業関係者の増加により、参加者数が増えた。 ・第1回から第8回のグランプリ入賞事例の紹介パネルを作成し、最終審査・表彰式の会場にて展示。 ・課題は協賛金を含めた資金確保。併せて、経費を含めた運営方法の見直しを行う。

1) 募集・最終審査・表彰式の開催

◆審査委員:

奥野信宏氏(中京大学理事・総合政策学部 教授)
飯尾歩氏(中日新聞社 論説委員)
東中健悟氏(近畿労働金庫 吹田支店 営業部門店長代理)
黒田かをり氏((一財)CSO ネットワーク 理事・事務局長)
森撰氏(株オルタナ 代表取締役社長)
岸田真代(PSC 代表理事)

- ・募集期間 :6月1日(金)～7月31日(火)
応募総数 33件(P24資料編*1を参照)
- ・第一次審査 :8月25日(土)、26日(日)
10事業を選出
- ・ヒアリング調査 :9月上旬～10月中旬
- ・第二次審査 :10月27日(土)、28日(日)
6事業を選出
- ・最終審査・表彰式 :12月1日(土)
中京大学名古屋キャンパス0号館
(センタービル)6階0603
グランプリ1事業を選出。
- ・日本パートナーシップ大賞グランプリ 1事業
NPOに記念盾と副賞30万円、企業に記念盾を贈呈。
- ・日本パートナーシップ賞5事業
NPOに記念盾と副賞10万円、企業には記念盾を贈呈。
- ・その他各賞
オルタナ賞 1事業、中日新聞社賞 1事業。

*最終審査会場にて、第1回～第8回のグランプリ事例をパネル展示。(協賛:パチンコセーフティマイト協働会)

*協賛企業:トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、(株)ジェー・シー・エム、(株)アパシコーポレーション、(公財)中部圏社会経済研究所

2) 運営委員会の開催

1)の審査日以外に運営委員会の開催は次のとおり。


- ・4月8日(日)
年間スケジュール、本年度事業運営について
- ・6月11日(月)
ヒアリング調査・評価基準の見直し及び共有
- ・2013年2月18日(月)
「第9回日本パートナーシップ大賞」のふりかえり及び事例集の発行スケジュール、次年度計画について。

◆運営委員:

面高俊文氏(元(株)デンソー 総務部長)
河井孝仁氏(東海大学文学部広報メディア学科 教授)
小室達章氏(金城学院大学現代文化学部情報文化学科 准教授)
高浦康有氏(東北大学大学院経済学研究科 准教授)
杉田教夫氏(元(N)パブリックリソースセンター プログラムオフィサー)
藤野正弘氏((N)きょうとNPOセンター 理事)
手塚明美氏((一社)ソーシャルコーディネートかながわ 理事)
長谷川直哉氏(法政大学人間環境学部 教授)
横山恵子氏(神戸学院大学経営学部 教授)
小林有見子氏(とちぎボランティアNPOセンター 主任研究員)

■ 最終審査結果

● パートナーシップ大賞 グランプリ

まごコスメプロジェクト事業 (N) 植える美 ing / 万協製薬(株)、(株)相可フードネット「せんぱいの店」、多気町 (三重県)	
園芸を通じて地域活性化の実現を図るために高校生らで設立された団体と、地元企業、行政との連携で、地域の特産品「みかん、伊勢茶、柿の葉エキス」などを用いた製品の共同開発を行う。コンセプト・ネーミング・パッケージデザインなどを NPO が行い、実際に高校生が使用した感想を取り入れて製品化。完成したハンドジェル、リップクリームなどは県内外で取り組みの発表や即売の機会を得ながら、産官学の連携による地域づくりを目指す。	

● パートナーシップ賞

空と土プロジェクト事業 (N) えがおつなげて / 三菱地所(株) (山梨県・東京都)	* 中日新聞社賞受賞
都市農山村交流を行う NPO と、東京の不動産業者とが協働して、東京丸の内のビジネスマンやマンション入居者に対して、農山村の魅力を体験するツアーとワークショップを行う。耕作放棄地を開墾、農作業の体験や、森林の間伐および間伐材の運搬など林業を体験する。農業体験で収穫した米を用い、地元酒造メーカーの協力で「純米酒丸の内」を造り、間伐材を使った製品(2×4 住宅の構造材および合板)作りなどを体験する。	
ニートの就職を支援「ホンキの就職」事業 (N) 「育て上げ」ネット / (株)リクルートホールディングス (東京都)	* オルタナ賞受賞
既卒者やフリーターを対象にした4日間の就職応援プログラムを、就労を希望しながら就職活動に踏み出せないでいるニート層にも拡大し、若者の自立支援にあたる NPO の助言を得ながら内容を改訂したうえで、北海道から沖縄まで全国 12 団体 16 拠点の公益法人に展開。企業がもつ就職支援ノウハウと NPO がもつニートの活動実態情報を組み合わせ、実効性の高いプログラムの開発及び研修講師の無償派遣・養成を行っている。	
HSBC子ども支援プロジェクト事業 (N) NICE (日本国際ワークキャンプセンター) / HSBC グループ、国立青少年教育振興機構、陸前高田市教育委員会 (東京都・岩手県)	
国際ワークキャンプをコーディネートする NPO、国際的な金融機関、教育支援機構、教育委員会が連携し、東日本大震災で被災した陸前高田市の小学校、中学校、高校に対して、学校教育支援、課外教育支援、人材育成支援を行う。学校教育支援では、市内全校に対して教育奨学金を提供し、課外教育支援では、英語でワークキャンプを開催し、人材育成支援では、高校生を海外のワークキャンプに派遣する。	
こどもの急な病気ののりきり方冊子販売事業 (N) ノーベル / (株)電通関西支社おかんカンパニー(大阪府)	
病児保育を行い働く女性を応援する NPO が、働く父母らの生の声や、活動の中で蓄積してきたノウハウをまとめた冊子を制作。活動に賛同した広告代理店のクリエイターらがキャラクター設定、デザインなどを担い、それぞれの強みを活かした冊子が協働で完成。発売約 2 ヶ月で 1000 冊の販売数を突破。NPO が目指す「子どもを産んでも当たり前働き続けられる社会」実現に貢献する。	
広島県東部海域里海保全事業 (N) 瀬戸内里海振興会 / ラボテック(株)、山陽建設(株)、浦島漁業協同組合、広島県 (広島県)	
アサリ漁獲量が減少した人工干潟において、地域の NPO と企業、漁協が連携して、干潟の機能回復を行う。専門知識を持った建設会社が土木指導を、調査会社が水産指導・環境調査を行い、実際の作業を NPO が行う。広島県の緊急雇用対策事業を活用し、雇用機会の創出を図った。	

* 第一次審査では、上記の 6 事業の他に次の 4 事業が選出され、調査対象となった。

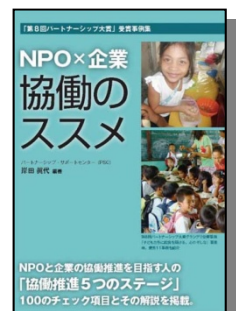
- ・ご当地グルメ東北6県 ROLL 復興支援事業(東京都) / (一社) 東の食の会、(株)イヌイ
- ・ラブタカタラブジャパンプジェクト事業(東京都) / (一社) SAVE TAKATA、ジャパンリカバリー(株)
- ・TABLE FOR TWO 事業(東京都) / (N) TABLE FOR TWO International、オイシックス(株)
- ・ラベンダーグローブで小児がん患児支援事業(大阪府・神奈川県) / (N) チャイルド・ケモ・ハウス、キンバリークラーク・ヘルスケア・インク

3) 「第 8 回パートナーシップ大賞」事例集の出版

「NPO×企業 協働のススメ」

(A5 判 134 ページ 12 月 1 日発行 1,470 円 サンライズ出版)

- ・編集期間: 2012 年 4 月～11 月
- ・第 1 部: 第 8 回パートナーシップ大賞の最終選考に進んだ 6 事業と、現地でヒアリングをした事業を併せ、11 事業を紹介。NPO と企業の質の高い協働のきっかけやそのプロセス、成果など。
- ・第 2 部: 「協働コーディネーターのススメ」と題し、2011 年度作成の「協働推進 Q&A」をバージョンアップして掲載。



2. コラボレーション事業

(1) 第7回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト

<(公財)中部圏社会経済研究所との協働事業>

中部圏社会経済研究所(旧団体名 中部産業・地域活性化センター)との協働により2006年度から開始し、7回目の実施。NPOによる企業との協働アイデアを募集し、最終選考では公開プレゼンテーションを行い、優秀な団体には協働実現に向けたフォローアップをする。NPOから企業への協働事業実施の働きかけの場を設定し、NPOと企業の協働を推進する事業。

(収入規模 800千円)



目的	・NPOから企業へ協働事業実施の働きかけの場を設定することで、NPOと企業の協働を推進する。
目標	・アイデア応募数 25事業 ・最終選考会参加者 100名 ・過去の受賞者を含め企業との協働の実現
成果と課題	・アイデア応募数は20事業、最終選考会の参加者数は95名。 ・PSCのCSR事業を通じた参加促進の強化により企業の参加は増えたが、NPOの参加者が伸びなかった。 ・アイデア募集について、次年度は北陸地域からの応募を増やすために広報を強化し、地域の支援センターの協力を要請する。 ・第6回の最優秀賞受賞団体が協働実現し、追加助成を行った。

1) 企業との協働事業アイデアを募集

- ・中部広域 9 県(愛知、岐阜、三重、静岡、長野、石川、福井、富山、滋賀)の NPO が対象。
- ・募集期間 : 7月2日(月)~8月31日(金)
- ・エントリー期間: 7月2日(月)~31日(火)
エントリー数 22 団体
- ・応募期間 : 8月1日(水)~31日(金)
アイデア応募数 20 事業
- ・中部 9 県のうち、5 県(長野・静岡・愛知・三重・滋賀)から応募があった。(P25 資料編*2を参照)

2) 一次審査(書類選考)

- ・日時: 9月7日(金)
- ・会場: (公財)中部圏社会経済研究所 会議室
- ・書類選考を行い、最終選考会でアイデアをプレゼンテーションする 5 団体を決定。
- ・審査担当者:
中部社研 小林宏之氏・宮田尚芳氏・深谷宏氏
PSC 岸田眞代・山崎恵美子・松橋佳奈子

3) プレゼン事前指導の実施

- ・最終選考会に向けて、プレゼンの相談受付やアドバイス等を実施。(9月~10月中旬)

4) 最終選考会&表彰・交流会

- ・日時: 10月17日(水)15:00~19:00
- ・会場: 名古屋栄ビル 12 階
- ・参加者数: 95 名(プレゼン団体含む)
- ・アイデアプレゼンテーションおよび審査・表彰

◆審査員:

- 古田真二氏(中部電力(株) 経営戦略本部 CSR・業務改革推進グループ長)
- 伊藤政典氏(㈱三菱東京UFJ銀行 企画部部長)
- 中野充康氏(愛知県県民生活部社会活動推進課 主幹)
- 小林宏之氏((公財)中部圏社会経済研究所 代表理事)
- 岸田眞代(PSC 代表理事)

■ 最終選考結果

●最優秀賞 (N)ジョイフル(長野県塩尻市)	松本平広域公園内にて、公園利用者が利用できるレストランを新設。ニート等、就労・職場定着が苦手の若者・就労に不安感の強い若者が一定期間働くトレーニングを実施。企業がハード面を準備し、NPOがソフト面である運営を行うことで一緒に「人を育てる」。
若者就労支援施設「おもちゃ箱のレストラン」(仮称)新設協働プロジェクト	
●優秀賞 なごや外来種を考える会(愛知県長久手市)	3年後に実施予定の特定外来種「オオキンケイギク」防除会に向けて、日本古来の「カラナデシコ」の種子の生産や分布調査などを企業と協働で行う。「ナデシコ」という関心の持たれやすいキーワードで呼びかけ、COP10愛知目標の実現を目指す。
守れ!ナデシコちゃん	
●特別賞 ママのホンネ研究所(名古屋市)	「カフェ」をママ目線でコンサルティングし、子連れでも気兼ねなく入れる、憩いの場を作る。「つながりカフェ」認定店とし、地域の喫茶店・カフェ文化の保全・継承と、子連れお出かけ支援を融合し、つながり作り・「まち」の活性化につなげる。
「つながりカフェ」でご近所力アップ! ～地域と多世代の顔の見える関係作り～	
●奨励賞 平日くらぶ(長野県諏訪市)	日中使われていない学習塾で、不登校の子どもたちや、その親(保護者)の居場所をつくる。学校教育では対応しきれない自由な学びをプロと一緒に構築し、子ども自身の悩みを受け止め、子どもが回復するまでの居場所とする。
僕らのフリースタイルラーニング(多様な学び場)	
●奨励賞 すごろく研究所(愛知県春日井市)	国内事業では、中高生によるまちづくり活動のアイデアを集め、互いに刺激し合い、アイデアを具体策として練り上げる機会を作る。また海外事業としては、中高生が先行事例であるドイツの「ミニミュンヘン」の視察を行い、より広い視野を持つ社会的起業家の卵を育む。
中高生のまちづくり活動アイデアコンペ実施事業	



最終選考会



受賞者による記念撮影



最優秀賞の受賞者

5) 受賞団体のフォローアップと協働アイデア実現をサポート

第7回入賞団体を対象にしたフォローアップ会を実施(2013年3月1日(金))。

- ・会場:(公財)中部圏社会経済研究所 会議室
- ・参加者:横山久美氏((N)ジョイフル)、野中賢輔氏・小関柳治氏(なごや外来種を考える会)、麦沢圭子氏・榊原清乃氏(ママのホンネ研究所)、渡辺裕子氏(平日くらぶ)、小林宏之氏・深谷宏氏(中部社研)、岸田眞代・山崎恵美子(PSC)



◆ミニ講演:「なぜ企業はNPOと協働するのか!」:

戸成司朗氏(東海ゴム工業(株)人事総務部社会貢献室長)



NPOと企業の協働について、企業がNPOに期待することなどを、具体例を挙げて説明。

6) 追加助成

第6回最優秀賞受賞団体「持続可能な松本平創造カンパニーわおん♪」への追加助成が決定。

- ・協働企業:株式会社テレビ松本ケーブルビジョン
- ・事業名:「CM およびインターネット放送によるNPOの広報力アップおよび地域活力の見直し事業」

(2) 市民・行政・企業の協働による地域防災に関する実証研究

<(公財)中部圏社会経済研究所 委託事業>

東日本大震災後の教訓・南海トラフの被害想定予測を受け、あらかじめ市民・企業・行政の協働による防災の仕組みを確立しておくことが望まれている。本事業は小牧市において、拠点を置く主要 4 企業を中心に、地域防災プログラムの策定にむけた実証研究を行う。
(収入規模 3,083 千円)



目的	・大規模災害の発災時に企業はどう対応すべきか。独自の BCP プログラムによる事業再開を目指すのはもちろんであるが、地域住民の生活復旧のためにできることは何か、予め想定される地域住民のニーズを把握し、企業から提供可能なインフラ・便宜等を確認し、大規模災害発災時に有効に機能するようなプログラム（合意点≒共通認識）を見出していく。
目標	・大企業と行政・NPO による地域防災に関する合意形成「地域防災プログラム」の策定に向けた研究。
成果と課題	・小牧市において、地域防災におけるそれぞれのセクターの現状と役割の認識を共有することができた。 ・「市民・行政・企業の協働による地域防災のあり方について 小牧市における実証研究報告書」を発行。会議で出された課題をまとめ、次年度の取り組みを提案。「地域防災研究会議」自主開催につながる足がかりができた。

1) 地域防災研究会議の開催

	日時	会場	内容
第1回	8月30日(木) 10:00~12:00	小牧市役所 本庁舎 6F 601 会議室	防災に対する企業・市民・行政の現状を聞き、企業が地域防災にどう関わるべきかを考える。 ・「小牧市における地域防災の現状報告」(小牧市) ・「企業が地域と関わっていくために ~過去の被災地における事例紹介~」((N)レスキューストックヤード常務理事 浦野 愛氏)
第2回	10月9日(火) 10:00~12:30	小牧市役所 本庁舎 4F 402 会議室	災害時における企業の立場を理解しつつ、行政・市民との連携について考える。 ・「広域災害における産業防災のあり方と課題~官民連携による地域経済・雇用の防護~」(名古屋工業大学大学院教授 渡辺 研司氏)
第3回	11月15日(木) 10:00~12:30	小牧市役所 本庁舎 6F 601 会議室	行政の役割を再認識し、あらためて地域防災における自助・共助・公助の関係について考える。 ・「被災後の再建までを支える地域のチカラ」(名城大学大学院准教授 柄谷 友香氏)
第4回	1月23日(水) 13:00~16:00	小牧市役所 東庁舎 1F 会議室 1-1	第1~3回の会議で出た意見を取りまとめ、三者が地域防災において合意できる要項を確認する。

2) ヒアリング

	日時	内容
第1回	8月30日(木)	構成企業2社の担当者と面談し、地域防災に対する意見・要望を確認。
第2回	10月1日(月)	構成企業2社および危機管理課課長と面談し、企業に対する要望について確認。
第3回	11月8日(木)	市長公室長と面談し、第1回・第2回の経過を報告しながら、地域防砂に対する小牧市としてのスタンスを確認。

<構成員>

行政	小牧市市長公室危機管理課課長 稲山 昌敏氏
	小牧市市長公室危機管理課長補佐 長瀬 晴美氏
	小牧市市長公室危機管理課係長 三品 克二氏 (第2回)
市民	(N)こまき市民活動ネットワーク 代表理事 松田 敏弘氏
	(N)こまき市民活動ネットワーク 事務局長 伊藤 かおり氏
	(N)こまき市民活動ネットワーク 理事 鳥居 由香里氏
	※小牧災害ボランティアネットの会 副会長
企業	東海ゴム工業(株)社会貢献室長 戸成 司朗氏
	東海ゴム工業(株)リスク管理室長 水野 昇氏
	東海ゴム工業(株)社会貢献室 鈴木 美波子氏 (第4回)
	日本ガイシ(株) 総務部 担当部長 守屋 信一氏
	日本ガイシ(株) 小牧事業所総務グループグループマネージャー 鈴木 利博氏
	日本特殊陶業(株) CSR推進室室長 鶴飼 床志氏
	日本特殊陶業(株) 小牧工場管理部 課長 杉元 良一氏
	CKD(株) 総務部部長 杉浦 俊明氏
CKD(株) 総務部 担当 森 宏貴氏	
主催	(公財)中部圏社会経済研究所 常務理事 宮田 尚芳氏
	(公財)中部圏社会経済研究所 総務企画課長 山本 義典氏

3)研究会議の成果

- ・第1回から第3回までの会議の経過を振り返りながら、第4回会議にて、地域防災における「自助・共助・公助」について「事前」「発災時」「復旧・復興」における各セクターの役割(共通認識)を確認した。また出された意見をもとに、以下検討が必要な課題の整理ができた。
- ・次年度は小牧市が独自で防災会議を開催し、さらに地域防災を深めていくこととなる。

(3) SAVE JAPAN プロジェクト

<(N)日本 NPO センター、(株)損害保険ジャパンとの協働事業>

全国 47 都道府県の環境団体、NPO 支援センター、損保ジャパンの協働により「いきものが住みやすい環境づくり」を目指し、各地で環境プログラムを行う事業。PSC は愛知県でのプログラムを担当する。(収入規模 1,300 千円)



目的	・これまで環境プログラムに参加する機会がなかった人を主な対象として、身近な自然環境について体験を通して学び、今後環境保全活動をしていくためのきっかけをつくる。
目標	・計4回のプログラムへの参加者：延べ100名以上 ・アンケートでの満足度：70%以上
成果と課題	・参加者：延べ108名(申込者数：延べ207名) ・満足度(4回の平均)：80.4% ・座学とフィールドワークにより、身近な自然環境の現状や環境課題について学ぶことができた。「再び現地を訪れたい」「引き続きプログラムに参加したい」という声も多く、はじめての人が今後環境保全活動に関わっていくきっかけづくりができた。 ・4回のプログラム全てが悪天候(雨天・台風)またはその心配があったため、実施直前にキャンセルが相次いだ。今後は、企画段階から雨天時のプログラムについて十分検討し、チラシ等にもその内容を明記する。

2つの環境団体と協働し、子どもや初心者が参加しやすい環境プログラムを計4回実施する。

- ・参加対象:小学生とその保護者
- ・定員:7月は40名、9～11月は30名

日時 (全て土曜日)	テーマ	参加者数 (申込者数)	満足度	実施場所	実施団体
7月21日 10:00～12:00	「外来種のこと、知っていますか？」 ～日本のクワガタ守り隊！～	30名 (48名)	67.1%	洗堰緑地 (名古屋市北区)	なごや外来種を 考える会
9月29日 10:00～15:00	「里山ってどんなところ？」 ～里山の生き物見つけ～	29名 (48名)	87.1%	なごや東山の森 「くらしの森」 (名古屋市千種区)	なごや東山の 森づくりの会
10月27日 18:00～20:30	「月夜の森ハイキング」 ～虫の音を聞き星を眺めてみよう～	31名 (50名)	85.5%		
11月17日 10:00～15:00	「竹について学ぼう！」 ～竹伐り体験と竹のクラフトづくり～	18名 (57名)	81.7%		



(4) 新しい公共フォーラム・あいち <主催：愛知県>

- 事前説明会:10月22日(月)、11月26日(月)
愛知県「新しい公共フォーラム」分科会代表者会議:10月22日(月)、11月26日(月)、2月25日(月)

●「新しい公共フォーラム・あいち」
新しい公共の担い手であるNPO、県民、企業、行政の新しい公共に対する理解を深めるとともに、地域の諸課題について、幅広い観点からの意見交換により、新しい公共の拡大と定着を図る目的でフォーラムを開催。

【全体会(パネルディスカッション)】

- ・1月12日(土)10:00～12:00 *パネリストの一人として、岸田真代(PSC 代表理事)が参加

【分科会】

- ・1月12日(土)13:00～16:00 「NPOと企業・行政等の協働をいかに進めるか」
NPO、企業、行政、経済団体を対象に、協働の仕組みづくりをテーマに、前半はシンポジウム、後半はワークショップを実施。参加者64名。

- パネリスト:和田勝氏(愛知中小企業家同友会副代表理事)
伊藤卓氏(太陽電化工業(株)常務取締役)
岡部扶美子氏(認定NPO法人パンドラの会代表理事)
金田学氏(愛知県産業労働部労働政策課主幹)

コーディネーター:岸田真代

- ・各セクターの役割が明確になり、NPO、企業、行政、地域などの様々なセクターによる協働の場作りの具体化が進んだ。



3. コーディネート事業

(1) NPO 喫茶支援

1) 三井住友海上 NPO 喫茶「カフェ・アイリス」支援

しらかわホール内バーコーナー「カフェ&バーしらかわ」(運営:社会福祉法人ゆめネット)。月 1 回の定例運営会議ほか、カフェへの関わり方をより深めるとともに、利用者数アップをめざす。

・運営会議

4月19日(木)、5月24日(木)、6月19日(火)、7月19日(木)、8月23日(木)
9月20日(木)、10月23日(火)、11月21日(水)、12月20日(木)
2013年1月31日(土)、2月20日(水)、3月28日(木)



2) 中産連ビル NPO 喫茶のオープン準備

中産連ビルディング株式会社(名古屋市東区白壁三丁目 12-13)内の喫茶スペース。

社会福祉法人ゆめネット、中産連ビルディング、PSC の三者にて協議を行い、2013年7月オープンを目指す。

(2) コーディネート講座の開催

地域や NPO の現場で活躍している方を講師に招き、活動を継続し、活動の輪を広げていくためのコツを学ぶための少人数制の講座を実施。

講座名	日時	場所	講師	参加者数
「インターネットラジオ放送をはじめよう」 	11月16日(金) 12月21日(金) いずれも 18:00~19:30	池下ピアザ	服部則仁氏 (N)みえきた 市民活動センター 理事長)	延べ 10 名
「『居場所づくり』について考えよう！」 	11月16日(金) 12月21日(金) 1月18日(金) いずれも 14:30~16:30	池下ピアザ	松下典子氏 (公財)さわ やか福祉財 団 東海ブ ロック代表)	延べ 11 名

(3) その他

明治ホールディング(株)によるお菓子の寄贈 ((N)日本 NPO センターとの連携)

・寄贈先団体: (N)アスペルデの会、愛知県被災者支援センター (2012年12月)

4. コンサルティング事業

(1) 企業の CSR 活動支援

＜自主事業＞

CSR 推進による中小企業の活力向上事業。昨年度までの 2 年間実施した愛知県の委託事業に参加した企業 6 社に対して、本年度からは自主事業として CSR 推進によるコンサルティングを継続して行う。

これまで培ってきたステークホルダー・ダイアログを始めとしたノウハウをもとに、CSR 推進による活力向上を目指す企業を新規に開拓してコンサルティングを実施する。
(収入規模 1,650 千円)



目的	・ステークホルダー・ダイアログを通じて、企業が社会や地域から求められているものを再認識し、経営改善や CSR 推進につなげて中小企業のさらなる活性化を図る。
目標	・愛知県委託事業に参加した 6 社（㈱真誠、㈱二和印刷紙業、㈱ドライバーサービス、太陽電化工業㈱、南部薬品㈱、㈱桃の館）に対して継続的に CSR 推進の支援を行う。 ・広く県内の企業にアプローチし、最低、5～6 社の新規受注を目指す。
成果と課題	・愛知県委託事業に参加した 6 社に CSR 推進への取り組みについて提案を行った中で、㈱真誠においては、社内に CSR 委員会が設置され、CSR 研修を含めた支援を実施できた。また、太陽電化工業㈱には講演会等においてパネリストとして積極的に参加いただく等、継続的な協働関係が構築できた。 ・新規開拓については、㈱サーラコーポレーションの企業会員加入、日本ガイシ㈱のステークホルダー・ダイアログへの参加などがあり、次年度へ向け協働関係を前進させた。現在開拓中の他の企業に関しては、引き続きアプローチし受注につなげる。

1) 愛知県委託事業（2010 年度～2011 年度）からの継続企業

- (株)真誠 CSR 委員会を設置し、CSR レポートの作成や NPO との協働に向けた支援を行った。

【CSR 委員会】

日時	テーマ
6 月 22 日(金)	真誠らしい CSR 活動策定に向けてその方向性を見つける
7 月 19 日(木)	CSR ビジョンを明確にするため、「3 年後のありたい姿」をまとめ、共有化する
8 月 24 日(金)	CSR 課題を ISO26000 のガイドラインと比較し検証する
9 月 18 日(火)	「真誠がとるべき CSR 戦略」を考える
11 月 15 日(木)	CSR 活動を具体化するため、“真誠らしい協働事業”を提案してみる
12 月 13 日(木)	協働企画（CSR 活動）を“協働事業”として具体化してみる
12 月 20 日(木)	真誠として進める CSR 活動の方向性について
1 月 17 日(木)	真誠として取り組む CSR 活動としての“NPO との協働”計画の決定
2 月 21 日(木)	協働事業の具体策協議およびキックオフ／CSR レポート作成について(1)
3 月 18 日(月)	子育てグループとの意見交換／CSR レポート作成について(2)

【CSR 研修】

日時	テーマ
10 月 12 日(金)	「地域・NPO との協働を進めるために」

- (株)ドライバーサービス

CSR 委員会:5 月 17 日(木)、社内研修への参加:6 月 3 日(日)

2) CSR 研究会の開催

主に中堅・中小企業に対して CSR を普及啓発する目的で、CSR 研究会を開催。

	日時	テーマ	講師	参加者数
プレイベント	8月2日(木) 14:00~16:30	「企業価値を高める CSR へ」	岸田眞代(PSC 代表理事)	10名
第1回	10月23日(火) 14:30~17:00	第1部「中小企業振興基本条例」を企業家の力に	愛知県産業労働部産業労働政策課 主幹 金田 学氏	52名
		第2部「小さな企業の CSR」	(株)カスタネット 代表取締役社長・社会貢献室長 植木 力氏	

3) 経済団体との連携

●愛知中小企業家同友会

CSR 研究会「第1回セミナー」の広報協力(後援)を得た。相互協力に向けた体制構築を進める。

●刈谷商工会議所

工業第一部会主催の講習にて講演(講師:岸田 眞代)。

日時	テーマ	講師	参加者数
10月19日(金) 14:00~16:00	CSR 活動推進“とっておき”の情報をお伝えします。	岸田眞代(PSC 代表理事)	20名 (17社)

4) 新規受注に向けての活動

会員企業をはじめ、愛知ブランド上場企業一覧等より 110 社を抽出してアプローチ。来期の契約を目指す。

5) CSR マンスリーへの連載

企業の CSR 担当者と CSR 経営者のためのニュースレター「alterna CSR monthly(※)」に、「中堅・中小企業と CSR」をテーマに連載(岸田) ※alterna CSR monthly … 株式会社オルタナが 2012 年 10 月から発行

6) 日本ガイシ(株) CSR ステークホルダーダイアログへの参加

日本ガイシ株式会社の CSR ステークホルダーダイアログに、ステークホルダー(中間支援 NPO)として参加。
日時:1月29日(火)、テーマ:日本ガイシグループの環境活動について

(2) NPO・企業・行政各種相談等

1) NPO 相談等

- ①マイスタージャパン、②(N)障がい児者・高齢者を癒し支援する会、③(N)プラスワンシード、④(認定 N)WITH
⑤NPO 東海道・吉原宿

2) 企業相談等

- ①中部電力(株)、②三井物産(株)、③東海ゴム工業(株)第三者評価(凸版印刷)、④カリツー

5. 教育啓発事業

(1) 環境 NGO・NPO 活動推進・組織運営講座 優れた協働事例の分析から“協働実践”へ

<(独)環境再生保全機構地球環境基金 委託事業>



さまざまな環境課題を継続的に解決する上で、「NPO と企業の協働」は極めて有効な手法のひとつである。そこで、環境 NGO・NPO を主な対象として、活動推進力・組織運営力を高め、協働を実践していくための講座を実施する。
(収入規模 2,011 千円)

目的	・「NPO と企業の協働」の意義・役割を把握する。優れた協働事例について話を聴くだけでなく、参加者自らが分析することで、協働実践のポイントを習得する。
目標	・参加者数：20 名以上（定員の 80%以上） ・講座アンケート「とても有意義だった」「有意義だった」：80%以上 ・フォローアップ・アンケート（講座実施から 1 ヶ月）「講座に参加して変化があった」：50%以上
成果と課題	・参加者数：17 名（申込者数：19 名） ・講座アンケート「とても有意義だった」「有意義だった」：100% ・フォローアップ・アンケート「講座に参加して変化があった」：69%

1) 受講者の募集

・募集期間：10 月 1 日(月)～12 月 8 日(土)

＊受講者の募集が難航。環境分野における「NPO と企業の協働」の意義や講座の魅力を分かりやすく伝える工夫が必要。

2) 講座の実施

(時間／10:00～16:00、会場／池下ピアザ、定員／25 名)

日時	テーマ	講師	参加者数
12 月 15 日(土)	NPO と企業の協働の意義、役割とは	岸田眞代(PSC 代表理事)	17 名
	協働事例の分析1 「企業が出来るこどもたちへの環境学習支援事業」	事業担当者：小川雅由氏((N)こども環境活動支援協会 理事) 分析アドバイザー：横山恵子氏(神戸学院大学経営学部 教授)	
12 月 16 日(日)	協働事例の分析 2 「くるくるエコプロジェクト」	事業担当者：傘木宏夫氏(NPO 地域づくり工房) 分析アドバイザー：岸田眞代(PSC 代表理事)	
	アクションプランの作成・発表	岸田眞代(PSC 代表理事)	

＊地球環境基金の創設 20 周年記念 DVD の作成のため、2 日間通して講座の様子を撮影。

3) フォローアップ・アンケートの実施

・実施期間：1 月中旬～1 月末

＊フォローアップ・アンケートの実施により、参加者の変化や今後の講座への要望などを把握できた。

(2) 環境 NGO・NPO のための講師派遣による組織運営講座 「組織運営力強化のためのメンター派遣プログラム」

<(独)環境再生保全機構地球環境基金 委託事業>

環境保全活動に取り組む NGO・NPO を対象に、組織の基盤強化と活動展開を図ることを目的に、メンター、専門家を講師として派遣し、会計、労務および協働の理解促進等に向けた指導、助言を行う。
(収入規模 2,656 千円)



目的	・団体の組織運営力の向上とともに、協働できる NPO づくりを支援する。
目標	・受講団体 7 団体 ・アンケートでの満足度：「指導・助言が有効だった」「役立った」と回答した人の割合が 70%以上
成果と課題	・受講団体 7 団体 ・アンケートでの満足度：「有意義だった」100%。問題の解決だけでなく、「ミッションと活動方針・組織運営についての課題が明確になった」等、活動の見直しやステークホルダーの存在を意識する機会となった。受講団体の運営改善への意欲が高まり、基盤強化や活動拡大につながる支援が提供できた。 ・メンターと受講団体との日程調整が困難だったことにより、十分な回数のサポートが提供できなかった。事業期間、実施時期についての改善を委託元に提案した。 ・受講団体の集まりが芳しくなかった。課題に気付いていない団体も少なくなく、募集段階から問題意識の啓発を図っていくことが必要である。

1) 受講団体の募集・選考

- ・募集期間：9月24日(月)～10月20日(土)
- ・選考：10月15日(月)
- ・受講団体：7団体(応募団体数7団体)
(N)イカオ・アコ、(N)心豊かにARDの会、(N)森林調査柚の会、(N)地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょう、中部ESD拠点協議会、(N)中部リサイクル運動市民の会、(N)三重の里山を考える会

- ・メンター：服部則仁氏((N)みえきた市民活動センター理事長)、松下典子氏((公財)さわやか福祉財団東海ブロック代表)、鬼頭保氏(なごや東山の森づくりの会事務局)、面高俊文氏(元(株)デンソー総務部長)、岸田眞代(PSC代表理事)
- ・専門家：三品雅義氏(税理士)、藤崎明子氏(税理士)、安江美和子氏(社会保険労務士)
- ・地球環境基金アドバイザー 今永正文氏が訪問指導の一部に同行。

2) メンター、専門家派遣によるサポート

各団体に訪問し、相談内容に関するヒアリングおよびサポートを実施。

- ・ヒアリング：11月1日(木)～11月19日(月)
- ・指導、助言：11月20日(火)～12月28日(金)
(全団体合計15回実施)



団体の主要メンバーが集まり、団体の課題について意見交換。

(3) 「市民活動団体(NPO)育成・強化プロジェクト」メンター業務

<(N)日本NPOセンター委託業務>

被災地域の NPO のリーダーが長期的に地域コミュニティの構築を行えるように、全国の NPO 支援センターのメンバーがメンターとなり、被災地域の NPO 支援センターとの連携による「寄り添い型」のリーダー育成を行う。そのメンターのひとりとして、岸田が岩手3団体を担当。

- ・サポート団体(岩手県)：(N)おらが大槌夢広場、(N)岩手NPOネットサポート、(N)くらしのサポーターズ
- ・メンター会議、メンターと受講団体との合同会議：4月26日(木)～27日(金)、9月1日(土)～2日(日)
3月13日(水)～14日(木)
- ・メンターによるフォロー：6月24日(日)～26日(火)、10月24日(水)～26日(金)、3月10日(日)～12日(火)、15日(金)
- ・インターン研修(くらしのサポーターズ吉田享氏)：1月11日(金)～1月19日(土)

(4) PSC学習会の開催

企業、行政、NPO 等を対象とした学習会を開催。

日時	テーマ	会場	講師	参加者数
9月28日(金) 10:00~17:00	NPOのための 広報スキルアップ セミナー	㈱電通 中部支社	西崎佐知子氏 (㈱電通第5CRプランニング局シニア・クリエイティブ・ディレクター) 尾崎敬久氏 (㈱電通クリエイティブ・ソリューション局クリエイティブディレクション部コピーライター、CMプランナー) 廣岡秀司氏 (㈱電通第5CRプランニング局アート・ディレクター、CMプランナー)	62名

(5) その他の講師派遣等

行政や企業、各団体からの要請に応じて講師を派遣した。

- ①4月28日(土) 東京都・法政大学「企業もNPOも地域も元気になる協働とは」(講師)
- ②5月24日(木) 中部電力㈱ステークホルダー会議(コーディネーター)
- ③7月1日(日) (社)ナゴヤハウジングセンター「環境・エコ・暮らし」(コーディネーター)
- ④11月28日(水)、12月26日(水) 静岡県(協働ルールブック編集会議)
- ⑤7月29日(日) 川崎市「エネルギー・環境戦略市民討議」モデレーター会議
- ⑥8月7日(火) 福岡県・株式会社フラウ「イキカツ(活かした社会的活動)事業」(講演)
- ⑦8月12日(日) 川崎市「エネルギー・環境戦略市民討議」(モデレーター)
- ⑧9月13日(木) 三井物産株式会社「企業とNPOの協働」(講演)
- ⑨9月23日(日) 大垣市まちづくり市民活動支援センター「市民活動セミナー」(パネリスト)
- ⑩10月27日(土)、12月1日(土) ブラザー「ゆうゆう56セミナー」(講師)
- ⑪10月31日(水) 富山県「NPOと企業 協働セミナー」(講演)
- ⑫11月3日(土) 名古屋市社会福祉協議会「人づくり応援事業」(講師)
- ⑬11月7日(水) デンソーユニティサービス「ビジネスマインド研修」(講師)
- ⑭11月13日(火) かわさきコンパクト・セミナー「成功するNPOと企業の協働 ―企業の事例から学ぶ―」(講師)
- ⑮11月14日(水)、20日(火) 千葉県新しい公共支援事業「NPOのパートナー力向上研修」(講師)
- ⑯12月4日(火) 富山県「NPOと企業 協働セミナー」(講演・マッチング)
- ⑰12月8日(土) 長野県新しい公共支援事業「NPOと企業の協働が地域を変える」(講演)
- ⑱1月16日(水) 神奈川県新しい公共支援事業「NPO×企業 協働コーディネーター養成講座(初級編)」(講師)
- ⑲1月30日(水) 茨城県経営者協会 CSR セミナー「成功する“企業とNPOの協働”に学ぶ」(講師)
- ⑳1月31日(木) 岐阜県関市社会福祉協議会「福祉まちづくり講座」(講師)
- ㉑2月21日(木)、2月28日(木) 東京都新しい公共支援事業「SHD演習」(講師)
- ㉒3月5日(火) 山梨県・新しい公共支援事業「協働推進コーディネーター養成講座」(講師)
- ㉓3月7日(木) 富山県・NPOと企業の協働マッチング実行委員会「NPOと企業のマッチングが行われて」(講師)
- ㉔3月19日(火) 香川ボランティア・NPOネットワーク講座「課題解決への道筋としての新たな企業と市民の関係 ―ステークホルダーダイアローグ―」(講師)
- ㉕3月20日(水) 徳島県「地域活性化のための社会貢献事業という選択」(講師)
- ㉖3月21日(木) 愛媛県・新しい公共支援事業「これからのNPOと企業の協働」(講師)
- ㉗3月30日(土) 東浦社会福祉協議会「広報セミナー」(講師)

*⑨は面高、⑩⑪⑰は下平、それ以外は岸田が担当。

6. 調査研究事業

以下の2つの「新しい公共支援事業」の調査事業に、アドバイザーとして協力した。

- ①静岡県磐田市民活動センター、②三重県 M ブリッジ

7. 情報受発信事業

(1) 「PSC Report」の発行(奇数月1日)

2012年5月～2013年3月(Vol.83～Vol.88)を発行。

Vol.	発行日	内容
83	5月1日	「SB&企業の連携推進事業」中間支援のための協働推進Q&A完成、「中小企業の活力向上事業」活動報告、社会的事業コーディネーター養成科修了、2011年度主な事業、「第6回企業&NPO協働アイデアコンテスト」フォローアップ会開催、会費変更と寄付のお願い他
84	7月1日	PSC自主事業2本柱スタート「協働推進Q&A ステージチェック体験講座」・CSR研究会設立プレイベント開催、2012年度PSC定時総会開催、「第7回企業&NPO協働アイデアコンテスト」エントリー開始告知、新スタッフ及びインターン紹介、ボランティア募集告知他
85	9月1日	協働推進Q&A ステージチェック体験講座開催、「第9回日本パートナーシップ大賞」一次審査終了、CSR研究会設立プレイベント「CSR、会社の未来その先へ」開催、「SAVE JAPAN プロジェクト」イベント開催報告および参加募集告知、2012年度新事業のお知らせ他
86	11月1日	CSR研究会第1回セミナー開催、「地域防災研究会議」スタート、「第9回日本パートナーシップ大賞」二次審査終了・6事業告知、「第7回協働アイデアコンテスト」開催および受賞団体報告、「SAVE JAPAN プロジェクト」イベント開催、PSCビジョン策定委員会開催他
87	1月1日	「第9回日本パートナーシップ大賞」最終審査およびグランプリ発表・表彰式開催報告、「メンター派遣プログラム」実施報告、「地域防災研究会議」開催報告、「環境NGO・NPO活動推進・組織運営講座」開催報告、「SAVE JAPAN プロジェクト」イベント開催、「新しい公共フォーラム・あいち」募集告知他
88	3月1日	「新しい公共フォーラム・あいち」全体会・分科会報告、「神奈川県協働コーディネーター」講座報告、書籍「協働のススメ」紹介、第5回PSC理事会開催、「地域防災研究会議(第4回)」開催、PSCセミナー2012開催他

(2) ホームページ等の運営他

ホームページへの新着情報の更新(週1回程度)、「PSC Report」のWEB公開、facebookの活用。

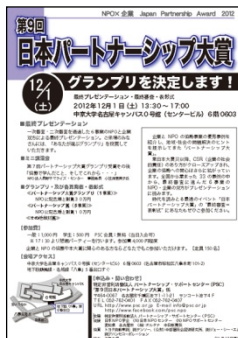
Facebook(URL:<http://www.facebook.com/psc.npo>)を7月より設置。

(3) チラシ等

各事業報告で記載したポスター・チラシの他に、以下のチラシを発行した。



「第9回日本パートナーシップ大賞」協働事業募集チラシ



「第9回日本パートナーシップ大賞」最終選考会案内チラシ



「第7回企業&NPO協働アイデアコンテスト」アイデア募集チラシ



「第7回企業&NPO協働アイデアコンテスト」最終選考会案内チラシ



「SAVE JAPAN プロジェクト」参加者募集チラシ

8. 提言活動・その他の事業

(1) 行政各種委員としての提言活動

- ① 愛知県「NPOと行政の協働に関する実務者会議」:7月11日(水)
第1作業部会 10月15日(月)、2013年1月9日(水)、2月25日(月)
- ② なごや環境大学(実行委員):幹事会 4月20日(金)・3月28日(木)、講座 5月11日(金)・7月20日(金)・
8月21日(火)・12月12日(水)・3月23日(土)、ゼミ 10月3日(水)・1月18日(金)・3月23日(土)
- ③ 名古屋市公共事業評価監視委員会:7月31日(火)、8月10日(金)、10月18日(木)、10月30日(火)
- ④ 東海市まちづくり推進事業審査員:一次審査会 6月4日(月)・二次審査会 6月23日(土)
- ⑤ 淡海ネットワークセンター「未来塾」(滋賀県):入塾式 6月9日(土)、講義 10月20日(土)
- ⑥ 尾張旭市市民活動促進助成事業候補選定会議構成員:候補選定会議 5月8日(火)、
中間報告会 2013年1月26日(土)
- ⑦ 愛知県「新しい公共フォーラム」企画委員会:6月8日(金)、7月18日(水)、11月29日(木)
- ⑧ 名古屋市公園管理運営業務委託者選定委員会:10月22日(月)、11月9日(金)
- ⑨ 名古屋市指定管理者評価委員会:6月18日(月)、6月20日(水)
- ⑩ 名古屋市協働会議:10月30日(火)、11月16日(金)、12月14日(金)、1月29日(火)、3月23日(土)
- ⑪ 名古屋緑化基金運用委員会:2月5日(火)

*①④⑥⑩は水野が担当。それ以外は岸田が担当。

(2) 各団体等との連携・ネットワーク

- ① (N)あいち子ども・NPO センター理事
- ② 愛フェス 2012 会議:5月6日(日)、6月8日(金)
- ③ 愛知県「新しい公共支援事業」成果報告会:5月11日(金)
- ④ 愛知県市町村・ボランティア担当者会議事業紹介:5月18日(金)
- ⑤ 社会的責任向上のためのNPO/NGO ネットワーク(NN ネット):5月17日(木)、18日(金)、2月20日(水)
- ⑥ NPO サポートセンター:ミーティング 9月5日(水)
- ⑦ 日本NPO センターCEO 会議:8月16日(木)、11月21日(水)
- ⑧ 損保ジャパン環境財団 CSO ラーニング:説明会 4月24日(火)、面接 5月24日(木)
- ⑨ 環境省:フォーラムパネリスト 10月27日(土)
- ⑩ 中部 ESD 拠点:ワークショップ司会、モデレーター 12月12日(水)
- ⑪ 市民セクター全国会議 2012:11月22日(木)
- ⑫ 内閣府「新しい公共支援事業」ヒアリング:3月22日(金)

*②は成瀬、③④は下平、⑧⑩は松橋、⑨⑩は阿部、⑪は岸田・下平、それ以外は岸田が担当。

■ センターの運営に関する活動

(1) 定時総会

日時:5月26日(土) 13:30～ 場所:ウィルあいち 2階 セミナールーム 6

参加者数:104名(出席:35名、委任状 69名)

内容:2011年度事業報告、2011年度決算報告、2012年度事業計画(案)、2012年度収支計画(案)、その他

◆総会時に合わせて、講演会および交流会を実施。

講演会:「NPO&企業 協働推進5つのステージ」

講師:岸田 眞代 (PSC 代表理事)

交流会:(講演会終了後、名古屋市北区のレストランにて開催)



(2) 理事会

	日時	場所	審議内容
第1回	5月16日(水)	池下ピアザ	2011年度事業報告・決算報告(案)、2012年度事業計画・予算(案)、定款変更、役員改選について
第2回	5月26日(土)	ウィルあいち	2011年度事業報告・決算報告(案)、2012年度事業計画・予算(案)、定款変更、役員改選について
第3回	7月25日(水)	池下ピアザ	2012年度事業報告・決算報告(中間) *臨時理事会
第4回	11月15日(木)	池下ピアザ	2012年度事業報告・決算報告(中間)
第5回	1月26日(土)	ウィルあいち	2012年度事業報告・決算報告(中間)、PSC設立15周年に向けて
第6回	3月27日(水)	PSC事務所	2012年度事業報告・決算報告(中間)、2013年度事業計画(案)、2013年度組織体制(案)、PSC設立15周年イベント(案)、PSC会員の会費見直し(案) 等

(3) 評議員会・ビジョン策定委員会

ミッション実現に向けての事業及び企画推進のために評議員会を設置した。

・評議員会

	日時	場所	テーマ
第1回	7月11日(水)	池下ピアザ	・現状と課題の共有

・ビジョン策定委員会(本年度は、理事会、評議員会(有志)によりビジョン策定をテーマに実施する。)

	日時	場所	テーマ
第1回	10月4日(木)	池下ピアザ	・現状と課題の共有
第2回	1月26日(土)	ウィルあいち	(拡大理事会にて方向性を検討。)

◆評議員:

相羽博文氏 (㈱東郷製作所 取締役)、井田克一氏 (いもの㈱ 代表取締役)、岩岡ひとみ氏 ((N)全国福祉理美容師養成協会 事務局長)、岡部扶美子氏 ((N)パンドラの会 代表理事)、戸成司朗氏 (東海ゴム工業㈱ 社会貢献推進室室長)、林 かぐみ氏 ((財)アジア保健研修所 事務局長)、阪野隆起氏 (レイ×アウト 代表)、三品雅義氏 (税理士)、水谷久美氏 ((N)あいち骨髄バンクを支援する会 理事)、安井和史氏 (中電防災㈱ 理事)、山崎嘉郎氏 ((N)環境改善技術推進機構 代表)、山本隆彦氏 (三井物産㈱中部支社 副支社長)、鷲見 修氏 ((N)レスキューストックヤード 理事)

(4) 認定 NPO 法人の取得に向けて

会員管理(入会、継続、休会等)の一元化および会員・寄附の拡大策について、検討を行った。

(5) シニアボランティア会議

月 1 回の定例会を中心に、PSC の事業との連携を図った。本年度は「ソーシャルニーズプランナー発掘講座」の企画に取りかかった。

・開催日:4月26日(木)、5月17日(木)、6月21日(木)、7月19日(木)、8月23日(木)、9月20日(木)、
10月25日(木)、11月22日(木)、12月13日(木)、1月24日(木)、2月21日(木)、3月21日(木)

(6) 事務局運営

月 1 回の事務局会議を定例開催。

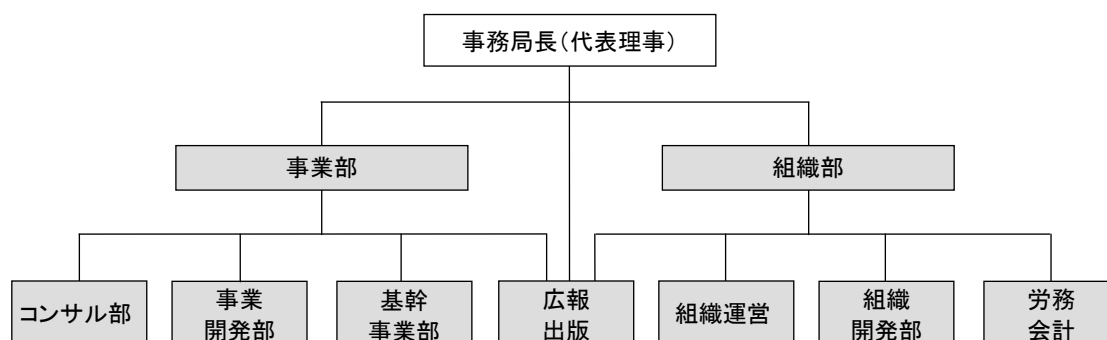
・開催日:4月2日(月)、5月14日(月)、6月3日(月)、7月3日(火)、8月1日(水)、9月4日(火)、10月2日(火)
11月5日(月)、12月3日(月)、1月8日(火)、2月4日(月)、3月4日(月)

(7) 年次報告書発行

2012-2013 年次報告書を発行(5月25日(土))。

(8) 事務局の組織体制

本年度は、以下の組織体制で活動に取り組んだ。



■ 2012年度 PSC 役員一覧 (五十音順、敬称略)

【理事 (13名)】

市川 博美	グローバル教育センター 代表
岩原 明彦	(株)デンソー 経営企画部 CSR 推進室長
岡部 扶美子	(N)パンドラの会 代表理事
加藤 歌子	税理士
河井 孝仁	東海大学文学部広報メディア学科 教授
川上 里美	(N)福祉サポートセンターさわやか愛知 理事長
岸田 眞代	(N)パートナーシップ・サポートセンター 代表理事
小林 宏之	(公財)中部圏社会経済研究所 代表理事
田井 伸一	三井住友海上火災保険(株) 中部総務部長
高田 正人	トヨタ自動車(株) 総合企画部 CSR室主査
林 隆春	(株)アバンセコーポレーション 代表取締役
堀越 哲美	名古屋工業大学大学院 教授
山本 昌弘	日本労働組合総連合会愛知県連合会 副事務局長(～12月)

【監事 (2名)】

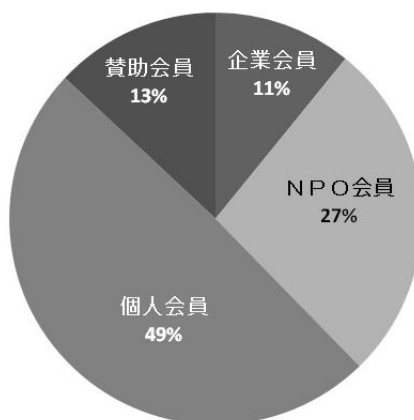
面高 俊文	元 (株)デンソー 総務部長
柴山 忠範	愛知県経営者協会 専務理事兼事務局長

■2012年度PSCデータ

※2013年3月31日現在

<会員数>

企業会員 15
 NPO会員 37
 個人会員 68
 賛助会員 18
 (計 138)



－ 2012年度 資料編 －

■ 事業報告の参考データ

事業の関連データを以下に示しています。

* 1 : 第9回 日本パートナーシップ大賞 (P6)

<その他の応募事業> (調査対象 10 事業を除く)

- ・高齢者等賃貸住宅支援事業(広島県) / (N)住宅支援びんごNPOセンター、(株)タカハシ
- ・就労困難者の就労支援事業(東京都) / (N)Future Dream Achievement、(株)アイエスエフネット(アイエスエフネットグループ)
- ・揖斐川流域クリーン大作戦事業(岐阜県) / (N)いびがわみずみずエコステーション、(一社)揖斐建設業協会
- ・駅の遊休地を活用した交流スペース運営事業(滋賀県) / 企画舎 羅針盤、京阪電気鉄道(株)大津鉄道部
- ・弥生の土笛～二千年の時空を越えて今、蘇る(山口県) / (N)子どもとともに山口県の文化を育てる会、下関商業開発(株)、山口大学埋蔵文化資料館
- ・幼児向け防災えほんで子どもの命を守る事業(愛知県) / (N)かすみん、(株)二和印刷紙業
- ・避難所体験会 in はつかいち事業(広島県) / 市民活動グループええじゃん、石原工芸(株)
- ・文化財の整理とデータベース作成事業(静岡県) / (N)伊豆学研究会、(有)ティーディードキュメント・サービス
- ・高校生バンドバトル 2011 事業(広島県) / deneb プロジェクト、(有)ウインディー、Music studios & Café STAIRWAY、佐伯区役所
- ・SDN の活用推進事業(兵庫県、神奈川県) / (N)国際情報科学協会、日本電気(株)
- ・企業内健康づくり推進「ちよいトレ」事業(石川県) / (N)クラブパレット、(株)富士通 IT プロダクツ、石川県立看護大学、かほく市
- ・まちくさワークショップ事業(京都府) / (N)子どもとアーティストの出会い、日本写真印刷(株)
- ・企業との連携で実現する障がい者支援事業(大阪府) / (N)トゥギャザー、シャープ(株)、堺市
- ・つくえ、つくろう。事業(広島県) / (N)府中ノアンテナ、(株)トイロ
- ・留学生が担う地域観光ガイドコミュニティ事業(兵庫県、大阪府) / (N)国際教育文化交流協会、(株)ジャッツ関西
- ・未来につなぐふるさとプロジェクト事業(東京都、茨城県、静岡県、三重県) / (N)共存の森ネットワーク、(N)アサザ基金、(N)グラウンドワーク三島、野原村元気づくり協議会、キャノンマーケティングジャパン(株)

- ・障害者市民活動支援融資制度ゆめのたね事業(大阪府)／(N)ゆめ風基金、近畿労働金庫
- ・日本の環境を守る若武者育成塾事業(東京都)／(公社)日本環境教育フォーラム、アサヒビール(株)
- ・介護福祉士ファーストステップ事業(兵庫県)／(N)さつき、(社福)はなさきむら
- ・日本 GE 聴導犬育成支援プロジェクト事業(長野県、東京都)／厚生労働大臣指定法人 (社福)日本聴導犬協会、日本 GE(株)バリアフリー・ネットワーク
- ・ひさいちのうぎょうふっこうしえん事業(宮城県、東京都)／(N)がんばっと！！玉浦、インフォコム(株)
- ・防災防犯メルマガ広告事業(新潟県)／(N)住民安全ネットワークジャパン、(株)位下印刷、(株)中越クリエイティブ
- ・人の心を繋ぐ里山活動支援事業(長野県、東京都)／(N)里山保全再生ネットワーク、中越パルプ工業(株)

*2：第7回 企業&NPO 協働アイデアコンテスト (P8)

<その他の応募アイデア> (入賞 5 アイデアを除く)

- ・社会保障費削減プロジェクト～看護・介護現場の筋骨格系障害の減少を目指して～／PreCare Japan(岐阜県各務原市)
- ・『セカンドライフ&社会貢献』の協働事業／JHTA セカンドライフ研究会(愛知県名古屋市)
- ・歴史的資料の復刻と普及／特定非営利活動法人伊豆学研究会(静岡県伊豆の国市)
- ・タブレット端末による買物弱者のためのネットスーパー利用促進事業／特定非営利活動法人 グループ HIYOKO(長野県塩尻市)
- ・ターミナル型トランクルーム「孫の押し入れ」／BHAG(学生団体) (滋賀県草津市)
- ・レッド・リボンフレグランスの開発／特定非営利活動法人 魅惑的倶楽部 (静岡県浜松市)
- ・名古屋であそぼっ！(中高生の居場所検索アプリ開発プロジェクト)／Change the City(愛知県名古屋市)
- ・農村資源を活用した「茶の間倶楽部」で都市と農村の縁結び／椿の農業と地域を考える会(三重県鈴鹿市)
- ・ジョブ&ライフコーチ／特定非営利活動法人 大津夜まわりの会(滋賀県大津市)
- ・定職のない若者の力を集結して地域力を掘り起こす、「つなぐステーション」事業／(社) ひきこもり支援相談士認定協議会 愛知県支部 「こもれび あいち」(愛知県瀬戸市)
- ・あんしんクローバーネット／あいちクローバー(愛知県名古屋市)
- ・夢の庭づくり／蒔の臺(ふきのとう)(愛知県岡崎市)
- ・園芸福祉と食育活動で仲間をつくり、心も身体も健康になろう！／園芸福祉@まるは農場 連携活動フォーラム(愛知県東海市)
- ・0-100(ゼロひゃく)コンサート&遊びを通じた世代間大交流会 事業／SKIP(愛知県名古屋市)
- ・時間預託制度／助っ人クラブ中部(愛知県刈谷市)

■ 新聞・雑誌掲載記事

CSRの意義解説

来月 2日 情報提供イベント

企業とNPOの協働を支援するパートナーシップ・サポートセンター(PSC)は8月2日、名古屋市千種区の池下ピアザで、CSR(企業の社会的責任)活動の情報提供を行うイベント「CSR、会社の未来その先へ」を開催する。同センターが立ち上げる「CSR研究会」の設立プレイベント。現在参加者を募集している。定員は20人定。

講師は同センター代表理事の岸田眞代氏が務める。CSR活動の意義や抑えておくべきポイントを解説。企業の経営戦略の構築に役立つ情報を提供する。同センターは、中小企業を主な対象としたCSR推進事業の実績がある。そのノウハウを生かして「CSR研究会」を設立し、支援を強化する。今後も研究会主催の講義を開催する予定。

参加費は5千円。問い合わせはPSC(電話052・762・0401)まで。

◀ (2012年7月18日中部経済新聞)
「CSR、会社の未来その先へ(8月2日)」開催告知

(2012年7月26日朝日新聞)
「協働推進体験講座(7月27日)」開催告知

●協働推進体験講座

NPO法人パートナーシップ・サポートセンター(PSC)が27日(後21時5分)、名古屋市千種区池下1の池下ピアザで開く。NPOと企業の協働がお互いにとってどのくらい進んでいるか、五つのステージに分けて受講者に自己診断してもらい、その結果をみながら、推進の仕方をアドバイスする。受講料5000円(テキスト代込み)、問い合わせ、申し込みはPSC(電話052・762・0401)へ。

(2012年8月3日中部経済新聞) ▶
「CSR、会社の未来その先へ(8月2日)」開催報告

CSRの有効性解説


PSC 活動推進イベント

パートナーシップ・サポートセンター(PSC)は2日、名古屋市千種区の池下ピアザで、CSR(企業の社会的責任)活動推進のためのイベント「CSR、会社の未来その先へ」を開催した。PSC代表理事の岸田眞代氏が講師を務め、CSR活動の意義や重要なポイントを解説。中小企業の代表者など13人が参加した。

PSCは、NPOと企業の協働の一環として、CSR活動を支援している。蓄積したノウハウを生かし「CSR研究会」を立ち上げた。設立プレイベントとして本イベントを開催した。

講義ではNPOと企業の協働によるCSRの有効性を伝えた。岸田氏は成功例を交えながら解説。「従業員が参加者は岸田代表の解説に熱心に耳を傾けた。誇りを持つる会社にするのが大切」と社会貢献の必要性を訴えた。

PSCは10月から、CSR研究会主催のイベントや講座を、月1回程度開催する方針。



参加者は岸田代表の解説に熱心に耳を傾けた

▼ (2012年11月1日北日本新聞)「NPOと企業の協働セミナー (10月31日)」講演報告

と企業の協働による新たな地域社会の創造」と題して講演。企業側の姿勢として「地域やNPOを含めた利害関係者の声を聞き、経営に反映させていく流れをつくることが大事」と話した。埼玉県のリフォーム会社、OKUTAの山本拓己社長が、NPOとの協働事例を報告した。



「NPOと企業の協働事例学ぶ」が31日、県民会館で開かれ、県内のNPO(民間非営利団体)や企業の約90人が、NPOとの協働でビジネスと社会貢献を両立させた事例を学んだ。写真。県と「NPOと企業との協働マッチング実行委員会」が初めて開いた。NPO法人「パートナーシップ・サポートセンター」の岸田眞代代表理事が「NPO

(2012年12月2日中日新聞) ▶ 「第9回日本パートナーシップ大賞」開催報告

三重・相可高設立のNPO法人
企業連携GP表彰
名古屋

NPO法人と企業に「賞」(中日新聞社などによる優れた連携事業を後援)の最終審査と表彰する「第9回日本パートナーシップ大賞」の表彰式が一日、名古屋市昭和区の中京大名古屋

キャンパスであった。グランプリには、三重県相可高校の生徒らが立ち上げたNPO法人と地元企業の取り組みが選ばれた。全国から三十三件の応募があり、最終審査



日本パートナーシップ大賞の各賞を受けた参加団体ら＝名古屋市昭和区の中京大で

に残った六件について各団体が説明。審査員と来場者による投票で選んだ。同高のNPO法人「スキんケア商品を開発。収益は園芸を通じて地域貢献活動に活用している。これまで六万個以上の売り上げがあるが、代表幹事を務める峯川咲希さん(こは)は「まだ通過点。目標は地域づくりでみんなが幸せになること」と熱意を語った。ほかに、特別賞の中日新聞社賞に「空と土プロジェクト事業」(NPO法人えがおつなげて・三菱地所、山梨県・東京都)、オルタナ賞に「ニートの就職を支援『ホンキの就職』事業」(NPO法人「育て上げ」ネット・リクルートホールディングス、東京都)が選ばれた。(本安幸則)

「植える美 in g」は、地元企業の万協製薬と地元農産品を使ったハンドクリームなど

東日本大震災の被災地で暮らすお年寄りらをハンドマッサージで癒やしてあげようと、三重県多気町の県立相可高校の生徒のグループが8日、同町の製薬会社と共同開発したユズの香りがするハンドクリームなどを携え、岩手県山田町に向けて出発する。グループは、園芸を通じて地域に貢献しようと同校生徒たちがつくったNPO法人「植える美inng」のメンバーで、

被災地に癒やしの手

相可高生、岩手へ

1〜3年の男女14人。3泊4日のバスツアーを利用し、山田町の仮設住宅や高齢者施設などを訪問する。同NPOは、多気町の「万協製薬」とともに地元の農産物を使った基礎化粧品などを開発。こうした取り組みが昨年12月、NPOと企業の連携活動を支援するNPO法人「パートナーシップ・サポーターセンター」(名古屋市)から表彰された。被災地への訪

問には、この時の賞金を充て先月にはハンドマッサージの方法なども学んだ。現地ではマッサージのほか、多気町産のお茶やシイタケせんべいも振る舞う予定。3年生の水本知穂さん(18)は「被災した方々の心のケアにつながるように頑張りたい」、鈴木里緒奈さん(18)も「私たちの手で多くの人を癒やしてあげたい」と張り切っている。



ハンドクリームを持ち、被災地での活動に意気込みを見せる相可高校の生徒ら(6日、三重県多気町の相可高校で)＝沢村宣樹撮影

PSC 年次報告書 2012-2013

編集・発行

特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター (PSC)

(2013年5月25日発行)

〒464-0067 名古屋市千種区池下 1-11-21 サンコート池下 4 階

TEL : 052-762-0401 FAX : 052-762-0407

E-Mail : info@psc.or.jp URL : <http://www.psc.or.jp>



* 地下鉄東山線「池下駅」
1 番出口から徒歩 2 分
(名古屋駅から地下鉄で 12 分)



Partnership
Support Center

パートナーシップ・サポートセンター